



海外生活レポート 17



【ベルギー王国】
BELGIUM



レポーター 首藤 佳世さん ●ベルギー・アントワープ在住

ベルギーのクリスマス

アントワープは、クラシックな街並を今に残すベルギー第二の都市です。「フランダースの犬」、画家の巨匠ルーベンスを思い出す方が多いかもしれません。

「シンタクラス」と「サンタクロース」

季節柄、こちらのクリスマスをご紹介します。アントワープにはサンタクロースが二回やって来ます。正しくは、12月初旬の聖ニコラの日にはシンタクラスが、そして24日にはサンタクロースがやって来ます。シンタクラスは4世紀に実在した聖ニコラ司教がモデルと言われ、スペインから子どもたちへプレゼントを持ってやって来ます。確かに、大きな帽子に杖を持った姿はカトリック司教に似ています。大変可愛い習慣があり、子どもたちは前日の夜に、靴の中に人参と砂糖を入れます。これは、シンタクラスが乗る口バの好物だからです。

黒塗りの従者

時代は変わり、私がアントワープでお迎えしたシンタクラスは、飛行機で空港に降り立ちました。子どもたちにお菓子を配りながら

パレードをします。そのパレードでひと際目立つのが、顔を真っ黒に塗った若者たちです。彼らは、ズワルトピート(黒ピート)で、シンタクラスの従者です。悪い子はピートにお仕置きされるという説もありますが、今は子どもたちの人気者のようです。なぜ、シンタクラスはスペインからやって来るのでしょうか。ベルギーはかつてスペイン統治下に置かれた歴史があり、プレゼントはスペインからやって来ると考えられたのだと思います。25日のクリスマスは、聖ニコラの日と比べると静かな日ですが、二度プレゼントをもらえる子供は大喜びです。シンタクラスとサンタクロースを両親と祖父母で分業する家庭もあり、親も知恵が必要です。

110年ぶりの世界体操 inアントワープ

10月、世界体操競技選手権がアントワープで開催され、内村航平選手の個人総合4連覇をはじめ、日本選手が大活躍をしました。会場はクラブミュージックが流れ、観客が参加するダンスもあり、おおいに盛り上がっていました。予選は、地元の小学生、中学生がたくさん見に来ており、子どもたちが体操競技を知る機会となり、決勝はベルギーだけでなく、オランダ、ドイツなど近隣の国から応援に来た観客が数多くいました。世界体操競技選手権の第一回大会は1903年にアントワープで開催されており、110年ぶりにアントワープに戻って来たこととなります。また次の世紀でもアントワープでの開催があるのかもしれない。

(文・写真: 首藤 佳世さん提供)



▲アントワープ大聖堂



▲黒ピート



▶シンタクラスと黒ピート



ベルギー王国
人口: 1,108.3万人
面積: 30,528km²
首都: ブリュッセル